

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	株式会社IHIエアロマニュファクチャリング					
代表者名	氏名	高橋 良二	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野県上伊那郡辰野町大字伊那富975					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	3 1 輸送用機械器具製造業				
主たる事業の概要	航空機におけるエンジンの圧縮機翼部品の製造					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	kl	3,637	3,528	3,748	3,916	3,778
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	6,719	6,517	6,917	7,230	6,964
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	0		0	0	0
自動車の台数	台	21		19	18	18
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	46				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	2019	年度
------	------	----

計画期間	2020	年度～	2022	年度
------	------	-----	------	----

報告対象年度	2022	年度
--------	------	----

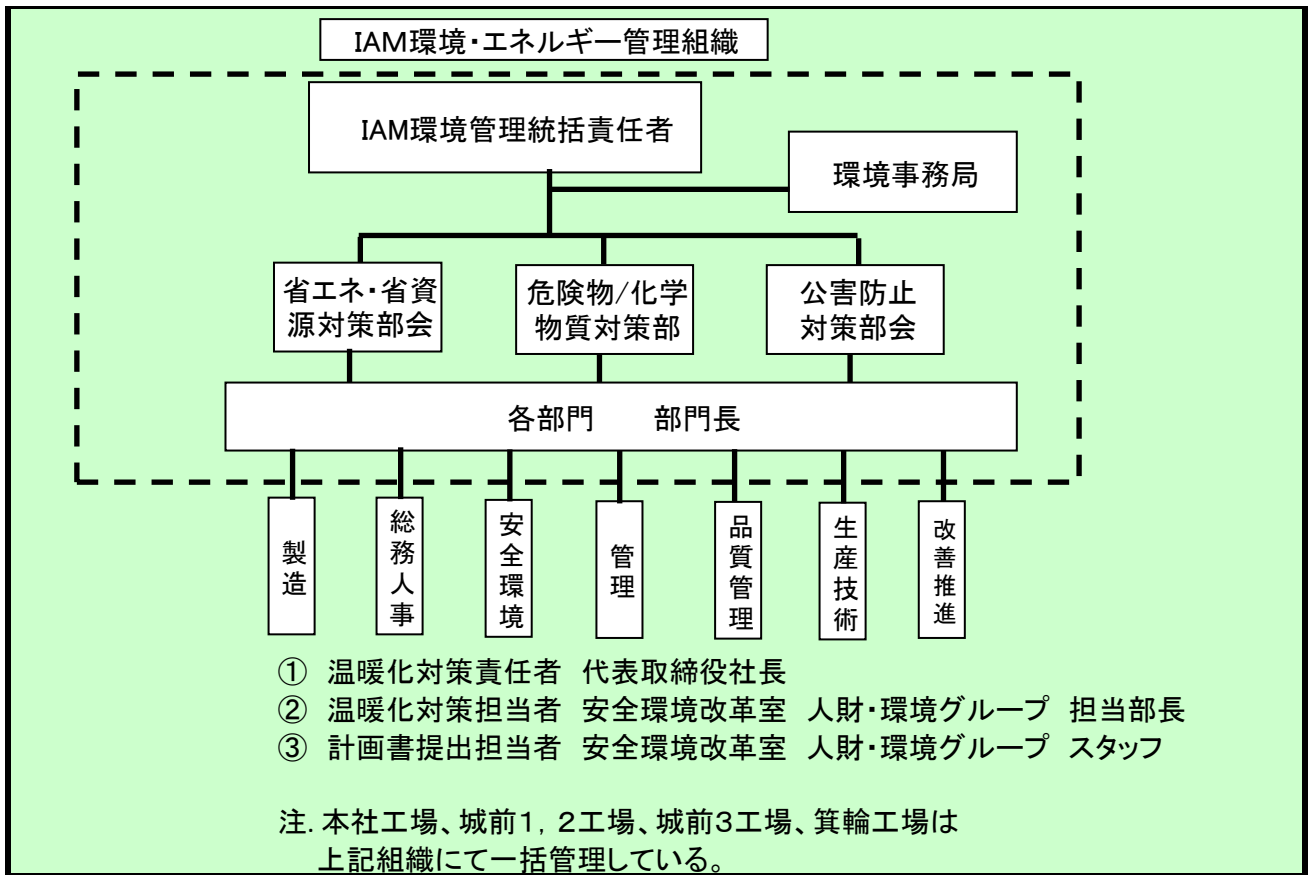
3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	株式会社IHIエアロマニュファクチャリング 8:00～17:00 安全環境改革室 人財・環境グループ TEL:0266-41-5262
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

環境マネジメント規定より目標を定め、四半期ごとの実績を管理し、省エネ対策や地球温暖化防止の取り組みを効果的に推進します。建物の新設時、設備の新設・更新時、また事業活動において、省エネや自然エネルギーの利用、公共交通機関の利用、環境を配慮した製品の選択等、地球温暖化対策の取組や環境負荷の低減に努めます。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

環境連絡会を毎月1回開催

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	6,719	t-CO ₂	操業工数	34.39	単位	万時間
2019年度	調整後排出量	6,719	t-CO ₂	基準原単位	195.39	t-CO ₂ /	万時間
目標年度	目標排出量	6,517	t-CO ₂	目標原単位	189.53	t-CO ₂ /	万時間
2022年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%	
目標設定に関する説明	2020年度実績排出量を操業工数を除して原単位を算出する。 1年間に原単位-1%目標を定め、2022年度までに-3%を目標とする。						
第一年度	排出量	6,917	t-CO ₂	操業工数	33.35	単位	万時間
	削減率	-2.95	%	原単位	207.38	t-CO ₂ /	万時間
2020年度	調整後排出量	6,917	t-CO ₂	原単位削減率	-6.14	%	
	削減率	-2.95	%				
排出量等の増減理由	2020年度は二酸化炭素の排出量が2.95%増加、原単位が6.14%増加となってしまった。二酸化炭素排出量増加の理由としては、箕輪工場において、新機種の生産立上げの為、前年度導入した多数の工作機械の稼働による影響が大きい。原単位悪化の理由としては、前年度における、親会社であるIHIの不正検査の事案を受け、グループ会社である弊社でも、製造・検査工程における品質確保を最優先課題としてとらえ、少しでも疑義があれば即座に生産を止め、必要な措置を講ずる体制を執った為、生産工数の減少により原単位の悪化を招いたと考察する。						
第二年度	排出量	7,230	t-CO ₂	操業工数	38.34	単位	万時間
	削減率	-7.61	%	原単位	188.55	t-CO ₂ /	万時間
2021年度	調整後排出量	7,230	t-CO ₂	原単位削減率	3.50	%	
	削減率	-7.61	%				
排出量等の増減理由	2021年度は二酸化炭素の排出量が7.61%増加、原単位が3.50%削減となった。二酸化炭素排出量増加の理由としては、箕輪工場において、昨年度からさらなる生産量増加に伴い、新たに生産ラインを立ち上げた為、多数の工作機械の稼働による影響が大きい。原単位削減の理由としては、前々年度から続いてきた、親会社IHIの不正検査の事案から端を発した、品質問題に伴う生産ラインの度重なる停止が、2021年度になりようやく減少してきており、それにより生産工数も上がることとなり、原単位としては削減傾向となった。二酸化炭素の排出量は引き続き抑えられるよう、省エネ活動を継続していく。						
第三年度	排出量	6,964	t-CO ₂	操業工数	36.03	単位	万時間
	削減率	-3.65	t-CO ₂	原単位	193.31	t-CO ₂ /	万時間
2022年度	調整後排出量	6,964	t-CO ₂	原単位削減率	1.06	%	
	削減率	-3.65	%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由	2022年度は基準年度に対し、二酸化炭素排出量が3.65%増加、原単位が1.06%削減となった。二酸化炭素排出量増加の理由としては、箕輪工場において、昨年度からさらなる生産量増加に伴い、生産体制強化の為、生産ライン増強による影響が大きい。原単位削減の理由としては、工場全体に向けて、不要時電源OFF等の基本的な省エネの呼びかけ及び、基幹職による抜き打ちの省エネパトロール等の実施により、日々生産がある中でも、地道な省エネ推進を改めて啓発・意識させることができた為、この効果によるものと考えられる。二酸化炭素の排出量は引き続き抑えられるよう、省エネ活動を継続していく。						

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位	
2019年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量	0	t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2020年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量	0	t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量	0	t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	46	t-CO ₂			単位	
2019年度				基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2020年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	削減率		%	原単位削減率		%	
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

7 重点対策の実施状況

段階	番号	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I～II	I-1	燃料使用量等の定期的な把握						
	I-2	エコドライブの励行						
III	III-1	次世代自動車の導入計画						
IV	IV-1	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	区分 番号	対策内容	計画		状況	
				実施予定 年度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施 年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	310100	環境マネジメントシステムの導入	2021	10		
2	エネ起	310100	推進体制の再整備	2020	1		
3	エネ起	310300	計測及び記録管理の細分化	2022	1		
4	エネ起	310400	エネルギーフローの見直し	2020～ 2021	3		
5	エネ起	その他	老朽化設備(加工設備)の更新	2020～ 2022	5	2022	5
6	エネ起	310500	生産工程のエネルギー管理	2020～ 2022	70		
7							
8							
9							
10							

9 自然エネルギー源利用設備等の導入計画及び状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光発電設備	kW	100	100	115	122	126

様式1号
(総括票)

10 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満	1	4,818	1	4,678	1	4,792	1	4,427
1,500k1未満	3	1,901	3	2,239	3	2,438	3	2,537
合計	4	6,719	4	6,917	4	7,230	4	6,964

11 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0			
CH ₄	0			
N ₂ O	0			
HFC	0			
PFC	0			
SF ₆	0			
NF ₃	0			
合計	0	0	0	0

12 次世代車使用台数等の導入状況 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	0			
電気自動車	0			
燃料電池自動車	0			
クリーンディーゼル自動車	0			
その他 (ハイブリッド等)	0			
合計	0	0	0	0
自動車総数	21	19	18	18
次世代車導入割合				

様式1号
(総括票)

1.3 交通対策状況

区分	実施内容
公共交通機関の利用促進	定期券購入時の全額会社負担 出張の際の自動車使用を原則禁止し、鉄道の利用を行っている。
自転車の利用促進	社有自転車を増やし、近距離の工場への移動の際に利用している。
来客者の交通対策	最寄駅からの分かりやすい地図を作成し、ホームページ上に記載している。
物流の合理化	定期便にて合理的に搬入搬出を行っている。

1.4 環境配慮活動状況

環境配慮活動	活動内容の詳細		実施年度
	実施内容		
<input type="checkbox"/> SDGs	長野県SDGs登録制度へ登録している		
<input type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムを導入している		
	名称		
<input type="checkbox"/> TCFD提言	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 支持を表明している		
<input type="checkbox"/> グリーンボンド	グリーンボンドを発行している		
<input type="checkbox"/> ESG投資	ESG対話プラットフォームに登録している		
<input type="checkbox"/> SBT	SBT を策定済、またはコミットしている		
<input type="checkbox"/> RE100	<input type="checkbox"/>	RE100にコミットしている	
	<input type="checkbox"/>	再エネ100宣言RE Action へ参加している	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	減容装置稼働による、廃油の排出量削減を実施。		2020

1.5 自由記載欄